

大学とともに発展する京都の実現について

【担当省庁】内閣府、文部科学省、経済産業省

50校近い大学が集積し、知の蓄積を持つ京都のポテンシャルを最大限に活かし、国家戦略として進めるグローバル人材の育成と高度人材等の受入れ拡大を京都から強力に牽引するため、以下の検討をお願いいたします。

提案

大学のまち・京都の実現

京都では、「大学のまち・京都」の未来像について、留学生5万人の実現などを目指し、具体的な戦略の構築に取り組んでいます。こうした取組を促進するため、以下の検討をしていただきたい。

- 文部科学省において平成24年度の予算措置がなされている「**留学生交流拠点整備事業**」（※当初予算額：550万円×全国8地域）について、**京都をモデル整備地域に選定**いただきたい。
- その際には、京町家や遊休行政資産の活用、ホームステイなど、文化や慣習の違いが学べる京都らしい**留学生受け入れ宿舎等の整備等を促進するため、同事業の予算規模やメニューの拡充等**を行っていただきたい。

京都府の現状・課題等

少子化・グローバル化が進展し、世界的に優秀な留学生や企業人材の獲得競争が激化している中、京都が世界の中で「大学のまち」「学問のまち」「学生のまち」として国際的に生き残っていくためには、日本人学生だけではなく、世界中から多くの優秀な留学生が集まる「人材育成・交流拠点・京都」となり、多様で豊富な「人財」を地域発展の原動力とすることが必要

◆留学前・在学中・就職の各段階で総合的な支援を実施

- 海外での情報発信を強化し、京都の魅力を広く深く知ってもらう。
- 留学生との交流を促進し、地域や大学及び日本人学生の国際化を図る。
- 生活支援等により、京都での留学生生活をより充実したものにする。
- 産学公が連携した就職支援により、地域経済の活性化を図る。
- 留学生地域交流センター（仮称）による、地域での一体的支援を実施

【京都府の担当部局】

政策企画部 戦略企画課 075-414-4334
 知事直轄組織 国際課 075-414-4311

<参考>

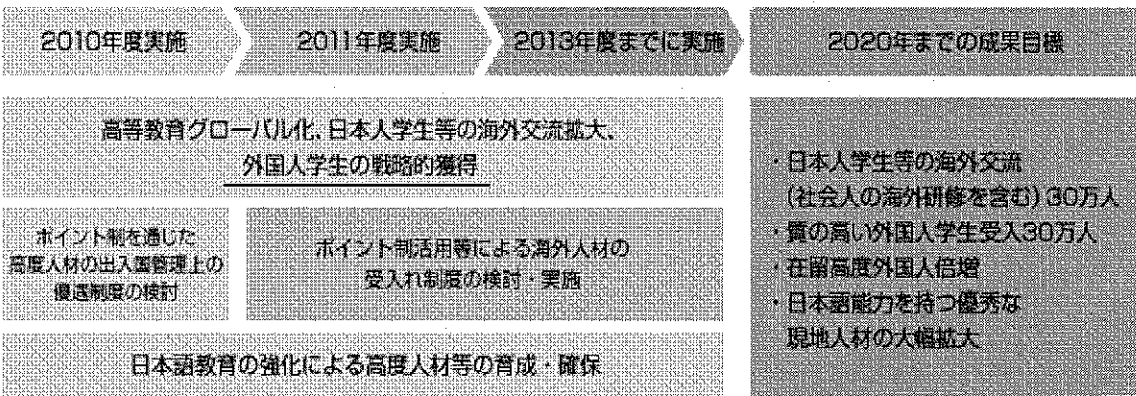
◆新成長戦略

～着実に歩みを進める「21の国家戦略プロジェクト」～(抜粋) H24.2 内閣官房国家戦略室

8. グローバル人材の育成と高度人材等の受入れ拡大

あふれる「知恵」と「人材」を、世界と共有します

- ・我が国の成長の牽引力となるべき「グローバル人材」の育成と、そのような人材が社会で十分に活用される仕組の構築を目指します。
- ・外国高度人材の受入れのためのポイント制（高度人材の特性に応じて学歴、職歴、年収などの項目ごとにポイントを設け、合計が一定点数に達した場合に高度人材と認定し、出入国管理上の優遇措置を付与）導入等を実施します。
- ・日本語教育の強化により高度人材等を育成・確保します。



◆京都の未来を考える懇話会 第一次提案（抜粋）平成24年3月12日

2. 大学のまち・京都

京都全体をキャンパス化し、学生同士や地域の住民、企業、研究機関、芸術家など、あらゆる人々が活発に交流・連携し、新たな価値を創造し続ける地域を実現し、世界中の学生や研究者を魅了する機能と環境を備えたまちをつくります。

- ✓ 大学ユートピア特区の設置（学生の交通料金の割引拡大、公的施設無料化や、税制の優遇措置による研究および起業の支援）
- ✓ リーディング大学院に代表される魅力的な学部・大学院教育の充実（融合領域の幅広い知識と実績のある、世界をリードする人材を輩出）
- ✓ 留学生5万人の実現（留学生の拠点施設・学生寮・奨学金・英語コース等の整備を行い、国際化を進める）

（京都の未来を考える懇話会構成メンバー）

山田 啓二（京都府知事）

門川 大作（京都市長）

立石 義雄（京都商工会議所会頭/京都商工会議所連合会会長）

松本 紘（京都大学総長）

柏原 康夫（京都府観光連盟会長/京都市観光協会会長）

池坊 由紀（華道家元池坊次期家元）

白石 方一（京都新聞社代表取締役会長兼社長）

留学生交流拠点整備事業（新規）

平成24年度予算額 0.5億円

背景

東日本大震災の影響により、外国人留学生の帰国、留学キャンセルが増加

【東日本大震災に伴う外国人留学生の在籍・就学状況について】(平成23年4月1日) (対象43校)

留学生500名以上を受入れている大学の留学生数	42,756人
新規渡日予定留学生数	5,641人以上
左記のうち渡日をキャンセルした留学生数	602人(10.7%)以上



「東日本大震災からの復興の基本方針(平成23年7月29日 東日本大震災復興対策本部決定)」

(4) 大震災の教訓を踏まえた国づくり ③世界に開かれた復興

(iv) 外国人留学生及び外国人研究者に対して適切な災害情報を提供するとともに、研究活動等の支援を行う。

『グローバル人材育成推進会議 中間まとめ』グローバル人材育成推進会議(平成23年6月22日)

4. (3) 留學生交流の戦略的な推進

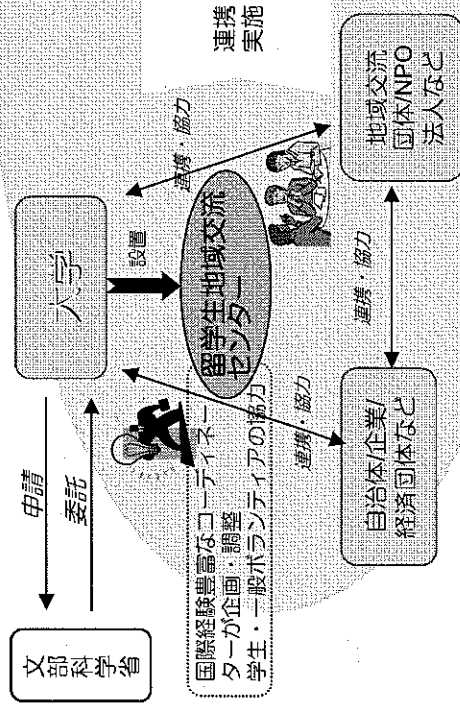
(i) 海外からの留學生受け入れの促進

☆優秀な外国人留學生を活用した日本人學生のグローバル化を促進する。

事業概要

1 委託事業 (全国8カ所をモデル整備) [0.4億円] (550万円×8地域)

大学等が、自治体やNPO、ボランティア団体等と連携し、地域の核となる国際交流拠点を整備して、留學生と日本人の學生・児童生徒及び地域住民等との交流を深めながら、地域一丸となって、生活面や就職、教育活動・地域活動への参画支援等の留學生支援を行う仕組みの、各地での構築を支援。



期待される取組

○仕組みの構築
・補助終了後も自立的に留學生支援を継続できる仕組みの構築

○センター機能
・ポータルサイトによる情報提供
・留學生と関係者間のコーディネート

○地域との連携
・留學生を講師として学校に派遣
・地域住民向け外国語講座の開設
・外国人留學生の地域交流イベントの企画等

○大学・企業等との連携
・共同プロジェクトやWS等の知的交流
・就職説明会
・インターンシップ等

○生活支援
・遊休施設の空きスペースの活用
・遊休施設の提供
・アルバイト情報の提供等

期待される効果

・ 地域における関係機関の連携促進

・ 中・長期的な視野に立った外国人留學生獲得のための環境整備の促進

・ 留學生の地域への定着促進

・ 優秀な外国人留學生を活用した日本人學生のグローバル化の促進

2. 本省事業 [0.1億円]

・ 全国会議の開催 (取組事例の報告、情報共有)
・ 『留學生の街』づくり推進委員会」の設置 (モデル事業の選定、留學生の街(補助地域)へのアドバイザー派遣)

京都の未来を考える懇話会 第1次提案 KYOTO VISION 2040 《30年後の姿》

◆30年後の京都の姿(ビジョン)を描く

急速な少子高齢化、グローバル化、迫られるエネルギー転換など、現代社会は大きな構造転換期にあります。この転換期を乗り切り、京都の未来を築くためには、関係者が一体となり、ビジョンを共有し、変化を先取りする行動が求められます。そこで京都の行政、産業、大学、文化・観光、メディアのトップが30年後の姿を語り合い、第1次提案として取りまとめました。広く府民・市民と共に考え、未来に向けての行動を起こすための提案です。世界を先導する望ましい未来を京都発で創造することができるかと私たちは考えています。

◆京都の強みを最大限に生かす

京都には比類なき特長があり、それらは普遍的価値を持ちながら、これからの時代の要請に的確に応えることができる優れた強みです。

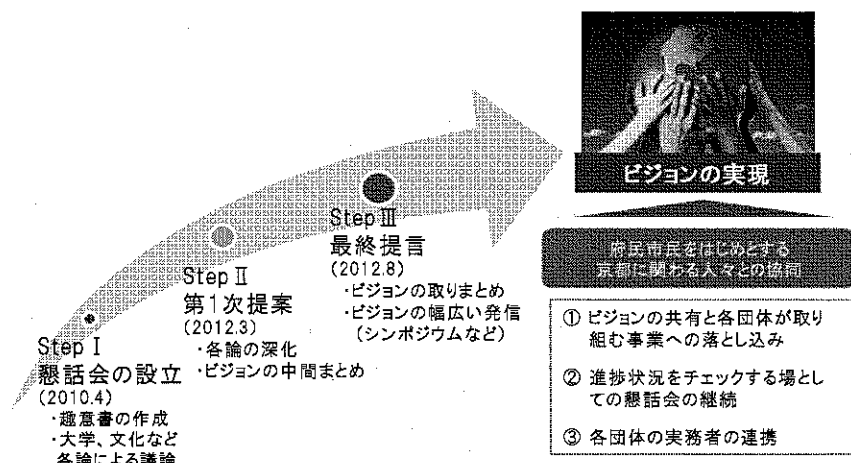
- ✓ 知と文化：人を魅了する文化の蓄積が厚く、多くの大学や研究機関も集積しています。
- ✓ 自律と好循環：それぞれの個性を尊重し、自律し、互いを生かし合うと好循環関係があります。
- ✓ 競走と創造：奪い合う「競争」ではなく、競って走る「競走」により新たな価値を創造し続けています。

◆京都は「世界交流首都・京都」をめざす

人こそが宝、人と人との交わりこそが価値を生みます。日本文化の中核都市・京都は、その魅力を基軸に知の交流、精神の交流、人と人との交流をつくり、文化の大交流、産業の大交流をつくり出すことにより、活気と創造性が溢れ、京都を含めて世界中の人々の心を満たす都市でありたいと考えます。

◆実現に向けて進む

2012年夏頃を目途に、ビジョンの最終案をつくり、シンポジウムなどでの情報発信などを経て、実現のための活動方針を確定する予定です。また、ビジョン実現の具体的な行動を起こす組織として「みらい京都実現委員会(仮称)」^(注1)の設置を検討します。



(注1) 京都の未来を考える懇話会の構成団体を中心に設置する予定です。京都大学では懇話会を支える研究ユニットを既に発足させています。

◆3つの未来像を描く

今までに懇話会で議論された3つの未来像^(注2)を提案します。我々は、この未来像を見据えて、それぞれの具体的戦略を立案していきます。

1. 世界の文化首都・京都

京都文化の裾野を拡大し、多くの人材が活躍する文化の都を実現します。首都機能のバックアップの必要性が高まるなかで、皇族の一部を京都にお迎えするとともに、文化庁、観光庁機能を京都が担います。

- ✓ 双京構想の実現(日本の大切な皇室の^{いやさか}弥栄のために、東京だけでなく、京都に、皇族の方にお住まいいただくことを願う)
- ✓ 文化庁、観光庁の京都移転(日本文化の中核都市・京都が、日本文化の継承と発展を支え、日本観光の充実強化を牽引)
- ✓ 保全と創造のまちづくり(美しい町並みを保全し、日本人の“^{ふるさと}こころの故郷”京都に新たな活力を創造するまちづくり)
- ✓ クール京都構想の実現(世界の文化関連産業でのトップブランドの確立)

2. 大学のまち・京都

京都全体をキャンパス化し、学生同士や地域の住民、企業、研究機関、芸術家など、あらゆる人々が活発に交流・連携し、新たな価値を創造し続ける地域を実現し、世界中の学生や研究者を魅了する機能と環境を備えたまちをつくります。

- ✓ 大学ユートピア特区の設置(学生の交通料金の割引拡大、公的施設無料化や、税制の優遇措置による研究および起業の支援)
- ✓ リーディング大学院に代表される魅力的な学部・大学院教育の充実(融合領域の幅広い知識と実績のある、世界をリードする人材を輩出)
- ✓ 留学生5万人^(注3)の実現(留学生の拠点施設・学生寮・奨学金・英語コース等の整備を行い、国際化を進める)

3. 生活創造都市・京都

京都に本社機能を置くエネルギーや環境関連等の分野における世界的企業の集積を活かし、学研都市への世界最先端の環境&生命科学系の研究所等の誘致や、生活を豊かに創造する中小企業・ものづくり産業の新たな展開により、未来型のエコ&ライフ・コンテンツを創造し、安心・安全の暮らしを担保するとともに世界に発信します。

- ✓ 「原子力エネルギー・ゼロの京都」(循環型社会モデル都市の実現)
- ✓ 京都イノベーションベルト構想の実現(京都市桂から学研都市一帯を未来型新市街地に)
- ✓ 人・ものをつなぐ交通インフラの整備(閑空アクセスやリア京都ルート、京都舞鶴港を門戸とした海外交流ネットワーク、「歩いて楽しいまち」やLRT(革新的路面電車)など)

(注2) 今後、産業、観光、環境などの分野を議論する予定です。

(注3) 京都府内の留学生数約6千名を、10年ごとに倍増させていくことを目標とします。

京都の未来を考える懇話会について

◇設立 2010年4月

◇目的・経緯

「京都の未来を考える懇話会」は、京都の行政、産業、大学、文化・観光、メディアのトップが30年後の京都の「ありたい姿」について語りあい、府民・市民と一緒に目指したい未来像をオール京都で熟成することを目的に設置されました。約2～3ヶ月に一度のペースで開催しています。未来の人口推移から見る京都の課題から議論をはじめ、大学や文化、東日本大震災を受けて京都はどのようなまちであるべきかなど、幅広いテーマで活発な議論を展開しています。

◇メンバー

山田 啓二	京都府知事
門川 大作	京都市長
立石 義雄	京都商工会議所会頭/京都府商工会議所連合会会長
松本 紘	京都大学総長
柏原 康夫	京都府観光連盟会長/京都市観光協会会長
池坊 由紀	華道家元池坊次期家元
白石 方一	京都新聞社代表取締役会長兼社長

◇これまでの開催とテーマ

準備会	(2010年1月)	京都の現状認識とビジョン共有の必要性を確認
第1回	(" 4月)	懇話会の発足と人口問題について議論
第2回	(" 7月)	30年後の京都の「ありたい姿」について議論
第3回	(" 9月)	「大学都市・京都」について議論
第4回	(" 12月)	「文化都市・京都」について議論
第5回	(2011年3月)	「中間まとめ」の策定と情報発信の強化の決定
第6回	(" 6月)	東日本大震災を踏まえ、30年後の京都について議論
第7回	(" 8月)	「中間まとめ(案)」について議論
第8回	(" 11月)	「中間まとめ(案)」について議論
第9回	(2012年2月)	「第一次提案(案)」について議論

2012年3月12日 「KYOTO VISION 2040」 第一次提案を発表